

～FXトレーダーみなみの第2段トレード戦略レポート～

皆さんこんにちは(^ω^)

第2段のレポートを作成したので是非、参考までに読んで見ていただければ幸いです。

私は、ライントレードでの記事を毎日書いていますが、

天井の時間帯と底の時間帯というものを把握しておくことで、ライントレードでの勝率を上げることが出来ています！

サイクル理論を用いて、天井の時間帯、底の時間帯を把握することで、売りエントリーがいいのか

買いエントリーがいいのか判断できます。

底の時間帯が近いのであれば、売りエントリー。

天井の時間が近いのであれば、買いエントリー。

これで順張りで安定したトレードを行うことが出来ますね。

ただ注意点などもあるので気をつけてくださいね！

それでは、サイクル理論について説明していきますね！

◆目次◆

1. サイクル理論とは？

2. サイクル理論が形成する形

3. サイクル理論における注意点

4. # 付録 合わせて使って欲しいライントレード

1. サイクル理論とは？

サイクル理論には、7種類ほど存在します。

しかし、長期サイクル、中期サイクルやなどは大きい周期になるので

あまり短期で見ている人たちには、必要ないかなと思います。

そこで今回のレポートで紹介させていただくのは、3つだけ！！

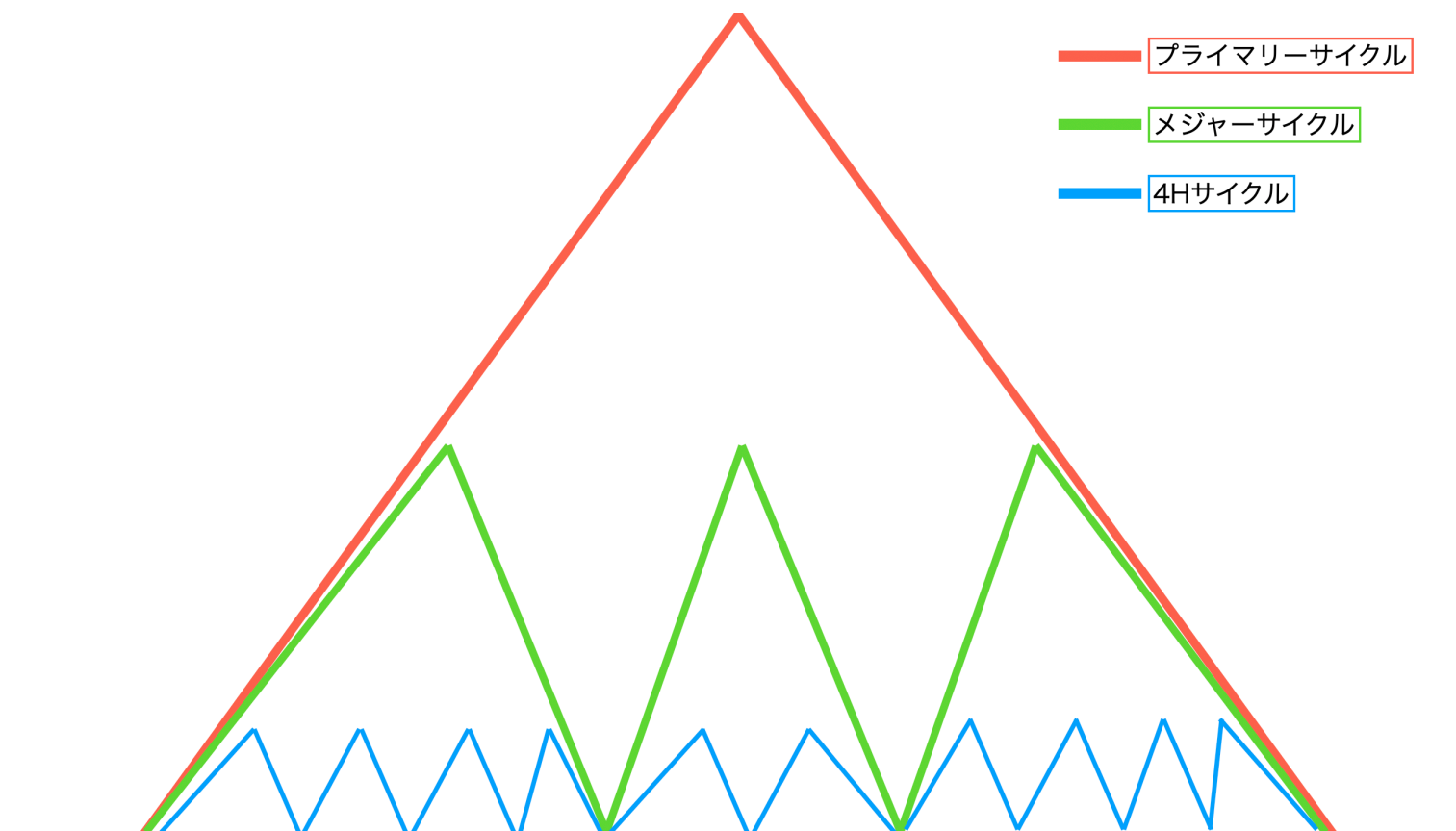
- ・ 週足チャートを見るプライマリーサイクル
- ・ 日足チャートを見るメジャーサイクル
- ・ 4Hチャートを見る4Hサイクル

この3つを理解していただくことができれば、かなりトレードに

いい効果をもたらせてくれると思います！

サイクル理論とは、チャートには周期があり、必ず底→天井→底という周期で動きます。その底の時間帯、天井の時間帯をローソク足を数えることによって把握するというものです。各サイクルによって、ローソク足の本数も変わってきます。

そして大きいサイクルの中には、短い周期のサイクルが2～4つほど存在します。



上記の図のような考え方です。

サイクルの数は例えで描いただけなので、気にしないでください。

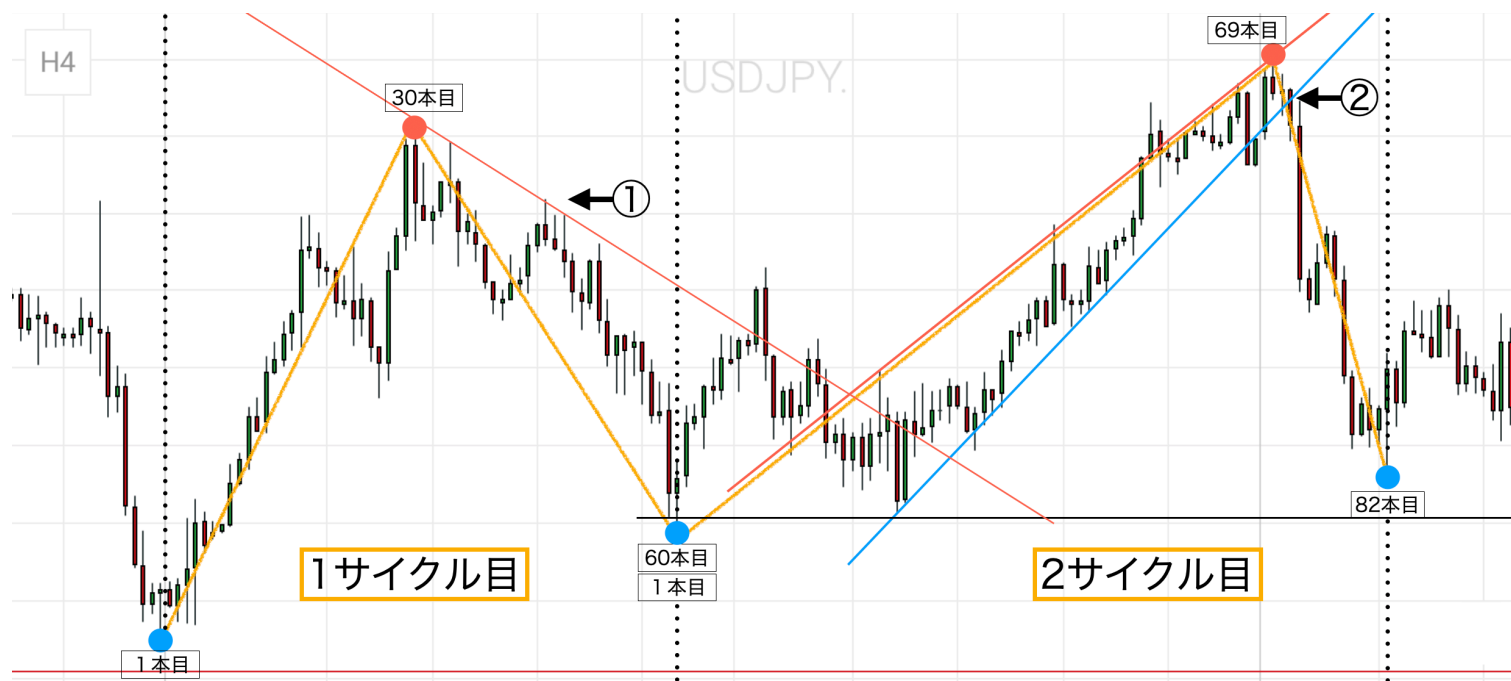
プライマリーサイクルの中には、だいたい2～4つのメジャーサイクルがあります。

メジャーサイクルの中には、だいたい3～4つの4Hサイクルがあります。

大前提としておさえておいてください！！

それでは、まずは短期チャートの4Hサイクルから書いていきますね。

～4Hサイクル～



4Hサイクルは、4Hチャートを参考にするサイクルです。

ローソク足がだいたい60本～80本で形成します。

上記の1サイクル目は、60本目で底をつけて1つのサイクルを形成しています。

そして2サイクル目は、82本目で底をつけて1つのサイクルを形成しています。

ただ単にローソク足を数えるだけです！！

※ここでの注意点は、底をつけたローソク足（今回の60本目）は次のサイクルの1本目としても数えます。

サイクル理論では、底と天井のルールがあります。

天井（サイクルトップ）は1つのサイクルの中で1番高い価格のところになります。

底（サイクルボトム）は1つのサイクルの中で1番安い価格のところではす。

私はローソク足を数えて把握しながら、ラインを引いてエントリーポイントを探しています。

上記の図では、①、②のポイントなどは絶好のエントリーポイントです。

①は、オレンジ色の上値抵抗線にかかっているタイミングです。

①は、45本目のローソク足なので、ここからまた天井を付けにいくことは

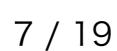
考えにくいので、オレンジ色の上値抵抗線で抑えられて下落するかなという考え方で売りエントリーです。

続いて②は、青色の下値支持線（サポートライン）をブレイクしてきたタイミングです。

そしてサイクル的にも、71本目なのでかなり底が近いということで、底へ向けて下落するかなという考え方で、売りエントリーです。

サイクルは延長することや早く終わってしまうこともあるので注意が必要です。

～メジャーサイクル～



こうやって見るとかなりサイクル理論は参考になりませんか？

延長したりすることもちろんありますが、だいたい底の時間を狙えると思います！！！！

日足チャートでもエントリーポイントを探ることが出来ます。

①、②のポイントなどはいいいエントリーポイントかと思います。

①は、青色の下値支持線（サポートライン）をブレイクしてきたタイミングです。

①は35本目のローソク足なのでメジャーサイクル的にも底をつけに向かう時間帯です。

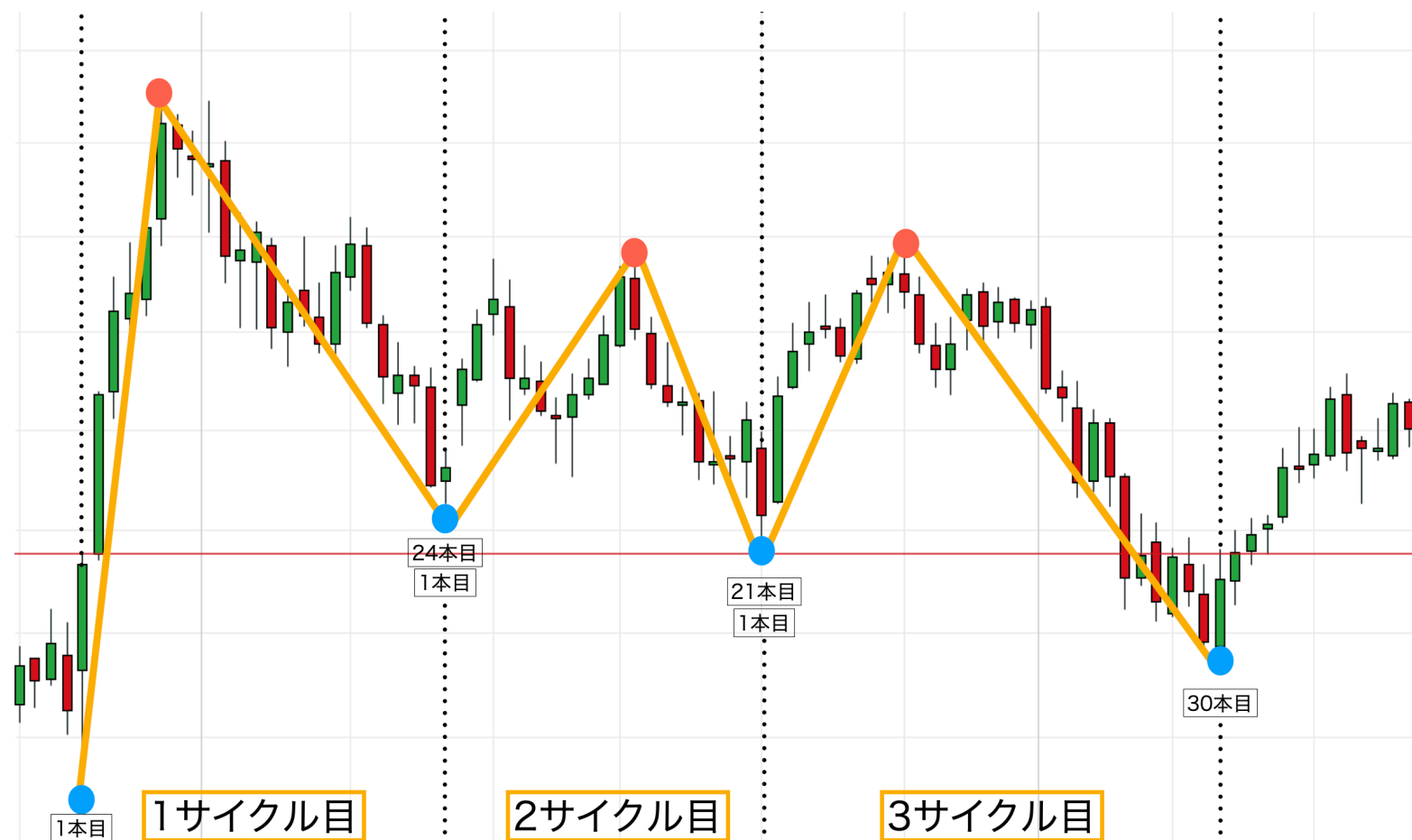
ということを含わせて売りエントリーポイントです。

②は、青色の安値の水平ラインをブレイクしてきたタイミングです。

②は41本目のローソク足なのでメジャーサイクル的にも①と同じく底の時間帯です。

ということでこちらも売りエントリーポイントです。

～プライマリーサイクル～



プライマリーサイクルは、週足チャートを参考にするサイクルです。

ローソク足がだいたい15本～25本で形成します。

上記の1サイクル目は24本目で底をつけて1つのサイクルを形成しています。

そして2サイクル目は21本目で底をつけて1つのサイクルを形成しています。

最後の3サイクル目も30本目で底をつけて1つのサイクルを形成しています。

プライマリーサイクルは、メジャーサイクル、4Hサイクルよりも大きいサイクルなので、プライマリーサイクルが底をつけるときは、メジャーサイクルでも、底！4Hサイクルでも底！になります。

サイクル理論は、相場の流れを掴むための理論になるので、

エントリーの手法として使うことは、あまりオススメではありません。。

「75本目だからそろそろ底の時間帯かな！上昇に転じるかも！」

と考えてエントリーするとまだ底は、先で損切りになってしまったなんてことが多発すると思います。

サイクル理論を用いてトレードすると逆張りで狙うことが多くなってしまうのでかなりリスクを抱えることになります。。。

テクニカル分析などと組み合わせて使うことで、1番効果を発揮してくれる理論だと思います！

- ・ ライントレード
- ・ ボリンジャーバンド
- ・ エリオット波動
- ・ MACD
- ・ ストキャスティクス

などなどです。

皆さんの得意の手法と組み合わせて使ってみてください！！！！

2. サイクル理論が形成する形

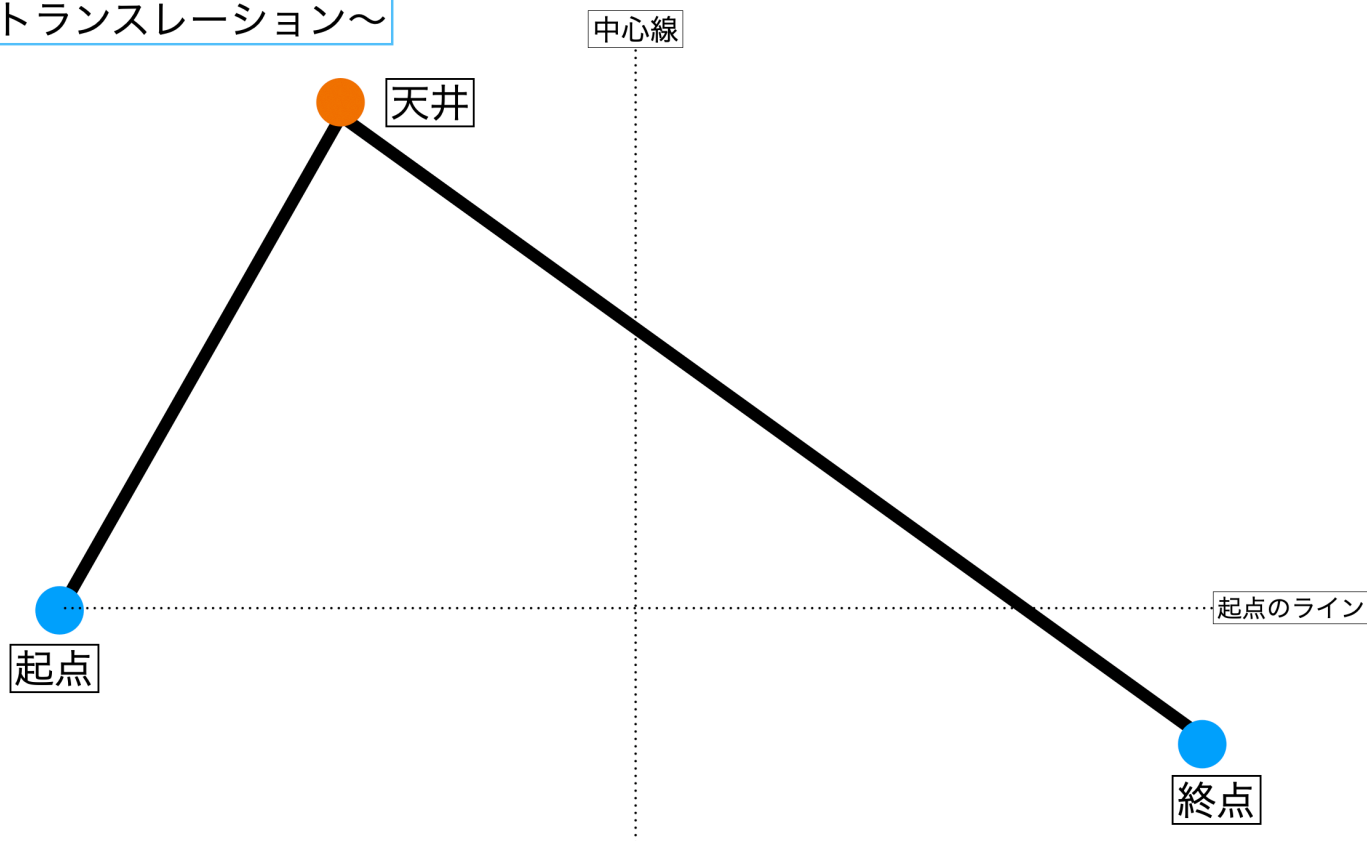
サイクル理論には、**トランスレーション**と言われる形があります。

- ・ ライトトランスレーション
- ・ レフトトランスレーション

この2つが基本的な形になります。

まずは「レフトトランスレーション」から説明していきます。

～レフトトランスレーション～



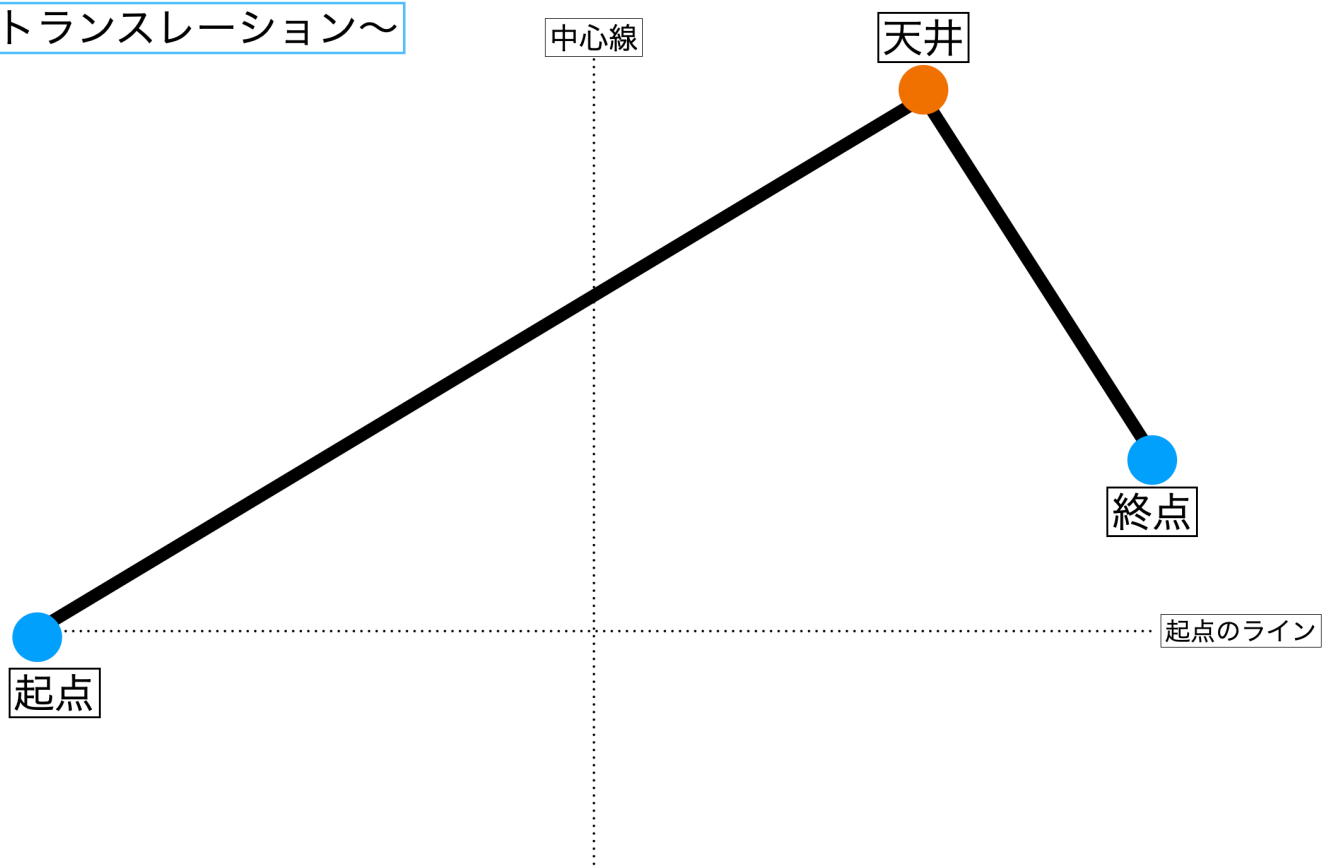
レフトトランスレーションとは、天井（サイクルトップ）が中心よりも左側につける形のことを言います。

レフトトランスレーションになると、終点（サイクルボトム）が起点（サイクルの始まり）の位置を割って底をつけることが多いとされています。

なので下落トレンドの際によく見られる形です。

続いて「ライトトランスレーション」を説明します。

～ライトトランスレーション～



先ほどとは逆で、天井（サイクルトップ）が、中心よりも右側につける形のことを言います。

ライトトランスレーションになると、終点（サイクルボトム）が起点（サイクルの始まり）を割らずに、それより上で底をつけることが多いとされています。

なので上昇トレンドの際によく見られる形です。

例えば、4Hサイクルでサイクルがスタートしてから65本目で高値を

更新してきた際は、ここからあと15本前後で底をつけないといけないことに

なるので下落して安値をつけにくい可能性が高まるかな。といった考え方ができると思います。

このように相場の動きを予測するためにはいい理論です。

※ただ注意点もちろんあります。

サイクルは大きいサイクルの方が強いので、小さいサイクルは影響を受けてイレギュラーが起きやすい！ということです。

今回紹介したサイクルでは、以下のような力関係になります。

プライマリーサイクル > メジャーサイクル > 4Hサイクル

例えば、4Hサイクルは、レフトトランスレーションを形成しており

起点割れをして底をつける想定でしたが、起点を割れずに底をつけた場合は

メジャーサイクルがライトトランスレーションを形成していたせいで

起点を割らずに底をつけてしまった。

これを、よく大きいサイクルに呑み込まれてしまったという表現をする場合があります。

こういうこともあるので、頭に入れておいて下さい。

大きいサイクルと小さいサイクルのトランスレーションが違う場合などは、要注意です。

3. サイクル理論における注意点

レポートの中でも注意点について説明してきましたが

再度、大切なのでまとめておきます。

- ・ サイクルの延長や早く終わってしまうこともある。
- ・ トランスレーションについて大きいサイクルの影響を受けてイレギュラーが起こる場合がある。
- ・ サイクル理論だけでトレードはしない方がいい。
他の手法と組み合わせて使うことをオススメします。
- ・ 大きいサイクルの中には、小さいサイクルが2～4つほど存在する。

4, # 付録 「合わせて使って欲しいライントレード」

ライントレードの中でもたくさんありますが、今回は一つに絞ってまとめさせていただきます。

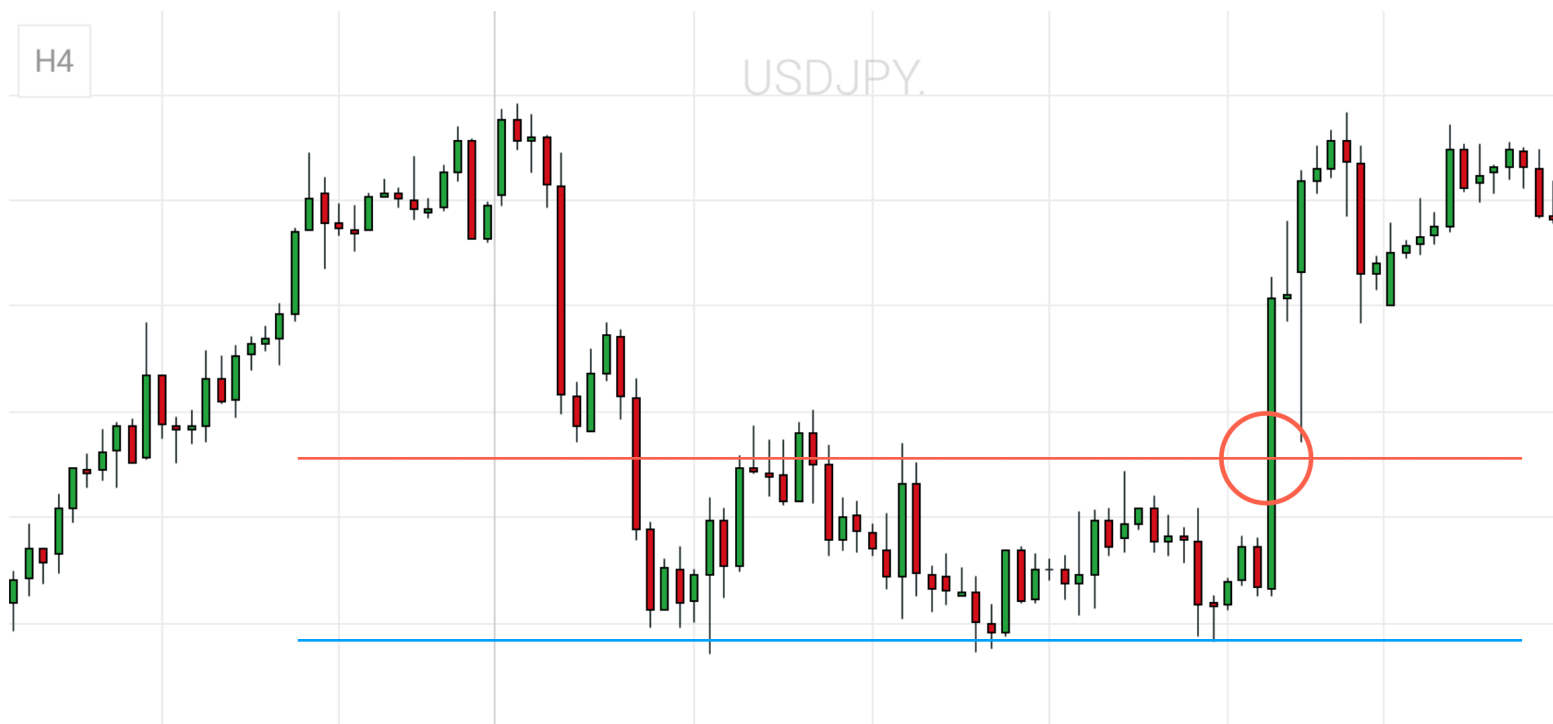
「他人の損切りラインを狙ってトレードしよう」です。

最近のブログ記事にも簡単に書いたんですが、再度詳しく説明させていただきます。

このレポートでは2パターンをご紹介します。

解説は次のページからしていきます。

まずはこちらです。



ドル円4Hチャートです。

オレンジ色のラインは揉み合い相場の上値抵抗線です。

青色のラインは揉み合い相場の下値支持線（サポートライン）です。

オレンジ色の○が、買いのエントリーポイントです。

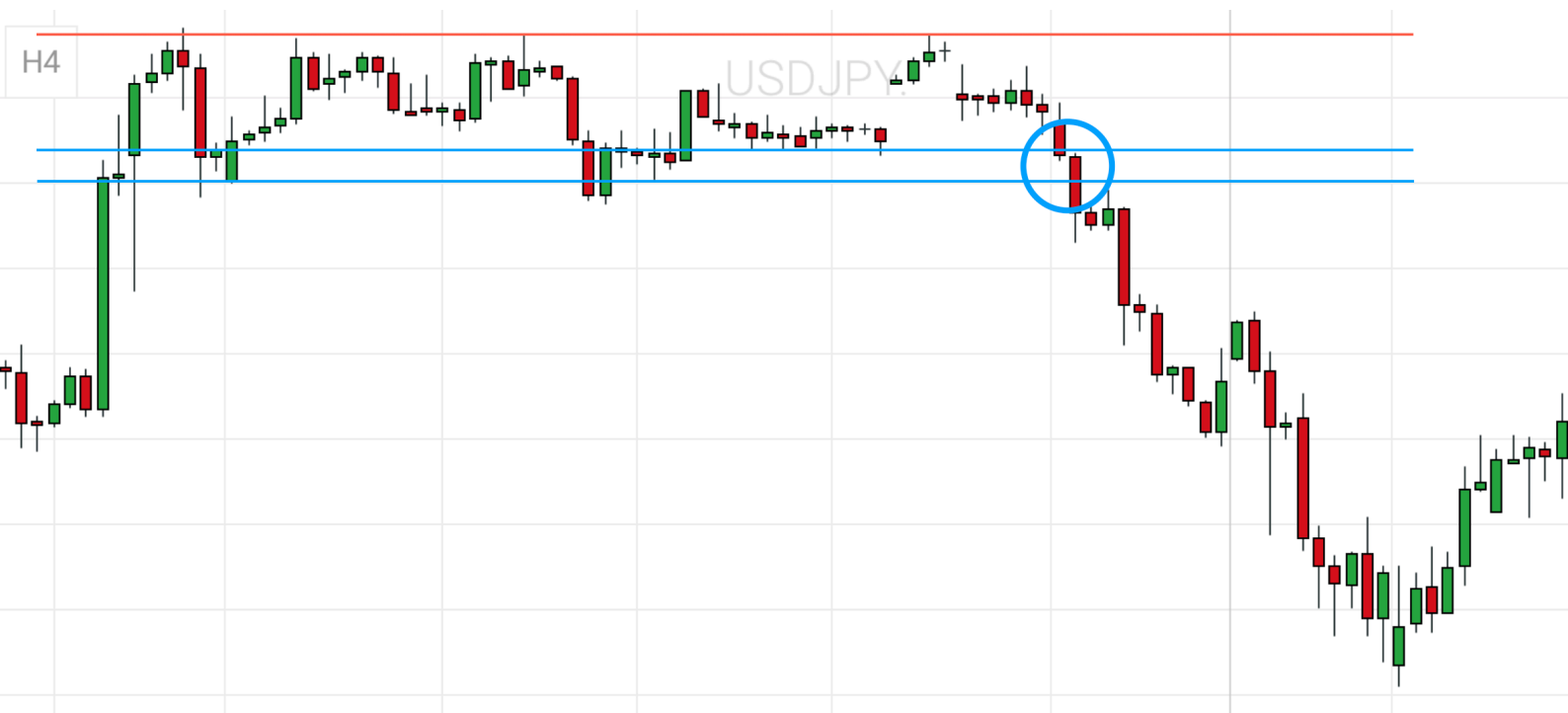
「なぜ？」

それは、売りエントリーのしている人たちのストップロス（損切り）ラインとして設定されている場合が多いと想定されます。

「ストップロス（損切り）買い」と言われるものですね。

ということは、**オレンジ色のライン**を超えてくると、そこから新規で買いエントリーする人に加えて、ストップロス（損切り）の買いも入ってくるので、上昇スピードが上がる傾向にありチャンスだということです。

続いてはこちらです。



こちらも**オレンジ色のライン**は揉み合い相場の上値抵抗線です。

青色のラインは揉み合い相場の下値支持線（サポートライン）です。

青色の○が、売りのエントリーポイントです。

「なぜ？」

これは、先ほどとは逆で、買いエントリーしている人たちは、青色のラインをストップロス（損切り）のラインとしている人が多いと想定されます。

「ストップロス（損切り）売り」と言われるものです。

ということは、青色のラインを超えてくると、そこから新規で売りエントリーする人たちに加えて、ストップロス（損切り）の売りも入ってくるので下落のスピードは早まりやすい傾向にありチャンスだということです。

これが私がいつもブログで書いている「有効なラインを超えてくると大きく動いてくれる。」ということです。

私たちも損切りを利用して儲けている人たちがたくさんいるということです。

私も始めたばかりの頃は、たくさんやられました。。。

これからは、どこに損切りラインをおいている人が多いかを考えながらトレードしていったらいいかと思います。

やられてばかりではいけないので、是非このレポートを参考にいただければと思い作成しました。

最後まで読んでいただき、「本当にありがとうございました！！！」

{著作権について}

こちらのレポートを開封いただいた時点で下記に書かせていただいている事に同意いただいた事になります。宜しくお願い致します。

著作権者の許可なくレポートの一部または全部をどこかに転載、どこかに公開する事、譲渡、転売する事を禁じます。

この著作権は、「みなみのFXトレード」の管理人に属します。

このレポートに書かれている情報は作成時の著者の見解です。著者は事前に予告なしに訂正、情報の最新化、見解の変更等を行う権利を有します。誤り、不正確な情報等が含まれている可能性があります。

レポートを利用することで結果的に損をしてしまった場合につきましても著者は、一切の責任を負わないことをご了承願います。

決して投資勧誘を促したものではありません。投資を行う際は、かかってくるリスクを十分に考慮の上、投資の運用は自己判断・自己責任で行ってください。